

多摩川上流圏域河川整備計画の概要

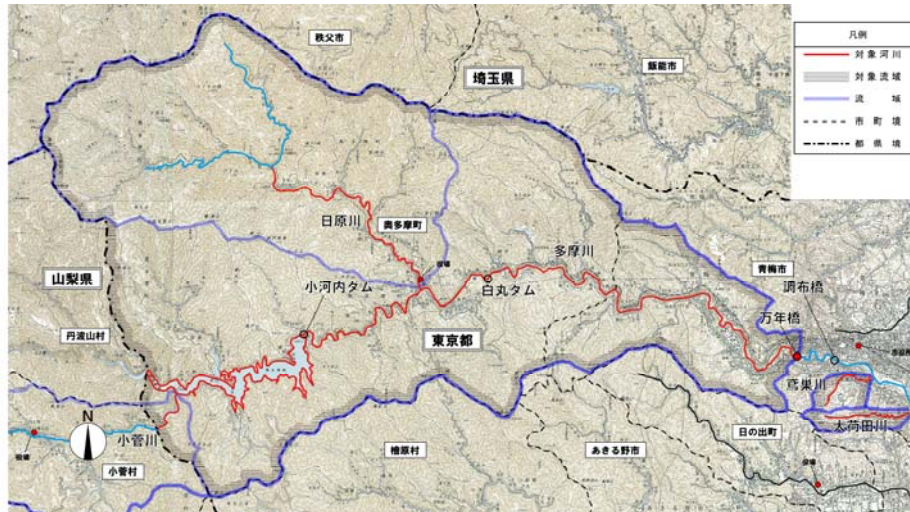
○多摩川上流圏域とは？

東京都が管理する多摩川上流（青梅市^{まんねんばし}万年橋～東京都・山梨県境）とその支川である小菅川^{こすげがわ}・日原川^{にっぽらがわ}に国土交通省管理区間で多摩川に合流する鳶巣川^{とびすがわ}・大荷田川^{おおにたがわ}を加えた5河川の流域を多摩川上流圏域といい、その範囲は下図に示すとおりです。



対象河川の河川延長と流域面積

河川名	河川法河川延長	流域面積
多摩川	36.9 km (万年橋上流～都県境)	162.7 km ² (同左)
小菅川	2.1 km (多摩川合流部～都県境)	2.8 km ² (同左)
日原川	9.0 km	92.3 km ²
鳶巣川	2.5 km	2.2 km ²
大荷田川	3.1 km	2.5 km ²



※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図を複製したものである。(保証番号 平21 業規、第597号)

○圏域の特徴

多摩川上流圏域の河川のうち、多摩川・小菅川・日原川は、秩父多摩甲斐国立公園内に位置する自然豊かな河川であり、憩いの場・癒しの場として多くの人々に親しまれています。また、多摩川には昭和 32 年に小河内ダムが完成し都民の貴重な水瓶となっています。これらの河川は、山地部を流れる渓谷状の自然河川で相当の流下能力（水を流す能力）があり、戦後最大規模の洪水（昭和 57 年・平成 19 年）に対しても、大きな被害を受けることがありません。

鳶巣川・大荷田川は、丘陵部の市街地を流下し多摩川の国土交通省管理区間で合流する掘込み河道の河川です。鳶巣川は昭和 28 年、大荷田川は大正 10 年に砂防指定され、早くから河道整備が進められています。また、鳶巣川の一部にはゲンジボタルが生息し、その周辺環境の保全を図るため河道整備が実施されています。



奥多摩湖の水面



日原川の渓谷



鳶巣川のボタル保全のための整備

河川整備の目標

洪水に対する安全性を確保しつつ、豊かな自然環境が保全された、人々の憩いの場・癒しの場となる川を目指します。

○計画対象区間と期間

計画対象区間は、多摩川上流圏域の5河川（多摩川・小菅川・日原川・鳶巣川・大荷田川）です。

計画期間は、概ね20～30年を目標としますが、洪水の発生状況や流域の土地利用状況、自然環境等の変化があった場合は、必要に応じて整備計画を見直します。

○河川の整備

治水

…………… 洪水による災害の発生防止又は軽減

多摩川・小菅川・日原川は、現在の河道において戦後最大規模の洪水（昭和57年8月の台風10号等）を安全に流す機能を有していることから、下流域（国直轄管理区間）との整合を踏まえ、これらの流量を計画流量とします。鳶巣川・大荷田川については、都内の他の中小河川と同様に1時間あたり50mm規模の降雨による洪水を安全に流すことを目標とします。※

多摩川上流圏域の河川については、計画規模の洪水に対する所定の流下能力を有することから、適切な維持管理により、現状の安全度を確保していきます。

※「中小河川における都の整備方針～今後の治水対策～」(平成24年11月)では、多摩部河川の、目標整備水準を時間最大65ミリ降雨に引き上げることとしましたが、本計画の対象河川は、山間部という地形的な特徴から流域の多くが森林で占められ、渓谷状あるいは堀込河道の河川であるため大規模な浸水被害の恐れは小さいことなどから、整備方針の対象外としています。

環境

…………… 河川環境の整備と保全

河川の適切な維持管理のため改良工事等を行う場合、自然豊かな河川環境の保全に配慮して実施します。

さらに、河川周辺的环境保全に対しても、地元自治体等の関係機関と連携して河畔林の保全や森林管理に努めていきます。

また、多摩川上流圏域の河川には都民をはじめ首都圏から多くの来訪者があることから、この豊かな自然環境を楽しめるように、地元自治体等の関係機関と連携して、川沿いに遊歩道などの施設を確保していきます。



多摩川の河畔林



多摩川沿いの遊歩道